

学級経営の実践的指導力の育成を図る「教職実践研究Ⅱ」の取組 ー実地観察をもとにした学級経営案の作成を通してー

菊 永 俊 郎 [鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター]・牧 原 勝 志 [鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター]

On the course "Research into Teaching Practice Ⅱ" for cultivating the practical leadership of class management : Class management plan making based on school observation.

KIKUNAGA Toshiro・MAKIHARA Katsushi

キーワード：実践的指導力、学級経営案作成、実地観察、模擬学級PTA

1 本講義の目的と概要

本科目(教職実践研究Ⅱ)は、学習指導や学校・学級生活を支える「学級経営」に関する基本的な知識・技能と学級経営に備える態度形成を目的とし、第1ステップでは、学級経営の基本的な考え方や学級担任の役割の習得、第2ステップでは、地域の特色を生かした少人数・複式学級のある学校現場での実地観察や経営案の事例研究、第3ステップでは、実地観察校での学級担任を仮定した学級経営案の作成とその経営案の説明を行う模擬学級PTAなどで授業を構成している。

2 学修目標

- (1) 学級経営に関する講義・演習、学校の実地観察及び学級経営案作成演習を通して、学級経営の基本的な考え方や学級担任の役割などを理解することができる。
(教職の意義の理解・学級経営に関する構想力)
- (2) 学級担任を仮定した模擬学級PTAでの学級経営案の説明を通して、教師としての責任や自覚などについて理解することができる。
(保護者・地域社会との連携力)
- (3) 実地観察やグループ活動等において、すすんでコミュニケーションを図るとともに、課題追究へ協働的に取り組むことができる。
(協働実践力・コミュニケーション力・自己改善力)
- (4) 少人数の学級や複式学級における学習指導、ICTを活用した遠隔共同学習の取組について学び、離島・へき地教育に関心をもつことができる。(情報収集力・分析力・活用力)

3 本講義の特徴

- 小規模・複式学級での実地観察
 - ・ 鹿児島の約半数の学校が離島を含むへき地校であることに配慮した。
 - ・ 複式学級で2学年を意識することにより、発達段階に着目しやすい。
 - ・ 少人数であるがゆえに、個々の児童生徒の実態を把握しやすい。
 - ・ 学校課題や地域の実情に即した学校経営が学級経営と直結しており、学校の全体像を実感しやすい。
- 学級経営案作成
 - ・ 校長講話や教頭・担任との懇談により学校教育目標や目指す学級目標が直結しやすい。
 - ・ 学校教育目標から学年・学級へと組織的・系統的に学級経営を学ぶことができる。
 - ・ 個々の児童生徒を思い出し、具体的かつ個人差に応じる学級経営を創意工夫できる。
- 模擬学級PTAでの経営案の説明
 - ・ 実地観察校の学級担任として説明を行うため、臨場感や意欲的な取組が期待できる。
 - ・ 保護者への接し方や丁寧な説明の仕方などを身に付けることができる。
 - ・ 保護者役の学生の質疑等により、説明責任の重要性や諸課題への気付きが生まれる。

4 本講義の運営及び計画

- (1) 受講者及び担当教員
 - ・ 2年生後期を対象(昨年度は16名・3年生も数名)
 - ・ 教育実践センター教員4名

(2) 実地観察校（複式学級を有する学校10校）

- ・ 大学と提携をしている日置市の小規模校

(3) 内容及び方法

目標関連	主 な 内 容	方 法
(1) ・ (3)	○ 学級経営の基本的事項，学校経営との繋がり，学級経営案作成の意義，内容等 ○ 学級経営課題や実態を踏まえた学習指導，生徒指導，心の教育及び保健安全指導 ○ 学級経営を観察する観点の設定，児童生徒とのコミュニケーションの図り方など ○ へき地小規模校における学校体験（一日） ○ 学校体験の振り返り活動・資料作成，体験報告会 ○ 学級経営案作成及び発表討論会	講義 講義・演習 演習（模擬演技） 実地体験 演習（発表） 演習（作成）
(2) ・ (3)	○ 少人数の学級，複式学級における学習指導，授業VTR視聴 ○ へき地小規模校における学校体験（一日） ○ 学校環境観察実習の体験発表 ○ 離島・へき地における情報教育技術を活用した遠隔教育システム等に関する講義 ○ ゲストティーチャーによるミニ講話（校長経験者）	講義・演習 実地体験 フィールドワーク 講義・演習 講義

(4) 授業計画

回	主 な 内 容 ， 活 動
[ステップ1]ー学級経営の基本的な考え方の理解	
1	オリエンテーション(目標・授業計画・評価)、自己診断 「学級経営についての基本的な考え方」(講義)
2	「学習指導と学級経営」(学習指導における学級経営上の配慮，複式授業VTR視聴)
3	「心の教育及び保健安全教育と学級経営」(心の教育，健康安全指導のポイント)
4	「生徒指導と学級経営」(ソーシャルスキルトレーニング，自己指導能力の育成)
[ステップ2]ー学級経営の観察・成果発表	
5	実地観察に向けた準備(日程・自己目標及び観察の観点の設定)
6・7	1日実地観察(学級経営の観察，校長講話，担任との懇談，交流活動)
8・9	省察活動，資料作成(記録整理，分析考察，発表資料作成)
10	学校体験報告及び課題研究発表(成果及び課題研究報告，集団討議等)
[ステップ3]ー学級経営案の作成と発表	
11	「離島・へき地における情報教育の活用」(講義) 情報教育技術を活用した教育方法や教員研修の開発(遠隔教育のシステム等)
12・13	学級経営案の作成と事例研究(作成方法，事例研究等，修正)
14	学級経営案発表会(経営案発表，模擬学級PTA，集団討議，総括，自己診断等)
15	実践研究Ⅱのまとめ(成果と今後の課題，自己診断等)

5 授業の実際

(1) 授業前の学生の実態（質問紙16名）

① 「学級経営」とは何をどうすることですか。

・学級目標を明確化・意識化(8名)・人間関係(6名)・子どもの成長(4名)・生活環境やルール(4名)・協力・団結(4名)・安心・秩序(3名)・個性尊重(1名)・知徳体の成長(1名)・のびのび元気(1名)・技能・態度の育成(1名)・貢献(1名)

② 自分が学級担任として採用されたらどんな学級にしたいですか。

・個性や自分らしさ(5名)・明るく元気活発(4名)・全員のよさ・団結(3名)・仲良し・助け合い(3名)・挨拶・マナー(3名)・失敗を恐れない(2名)・本音・会話(2名)・保護者連携(1名)・障害理解(1名)・相互理解(1名)

③ 学級担任を担う際に、自己の課題としてどんな力量を高めたいですか。

・専門知識・コミュニケーション能力・愛情・体力・保護者へ伝える力・広い視野・発達段階・話術・判断力・先見性・子ども全員を見渡す力・リーダーシップ・集団を動かす力・子ども理解・保護者理解・広い視野・学級統率力・聞く力

(2) ステップ1の授業（学習指導・生徒指導・保健安全指導と学級経営との関連）

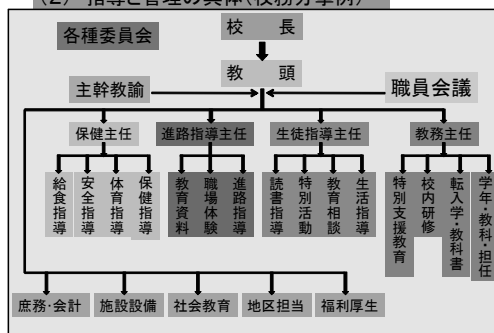
上述(1)からも分かるように、2年次学生の学級経営に関する知識として、1年間の「学級目標の明確化」や担任・子ども相互の「人間関係」や「秩序・団結」など集団づくりとして捉えており、自分なりの学級担任像や子ども像、自己の課題も指向的に持っていることが伺える。これらの学生の指向性や意欲を具体化するには、実践的な指導の場がどのように仕組まれているかを理解させる必要がある。

そこでステップ1では、学習指導や生徒指導、保健指導、環境設営等と学級経営の関連について、特に、学校組織としての校務分掌（図表1）や学校教育目標・学年経営案（図

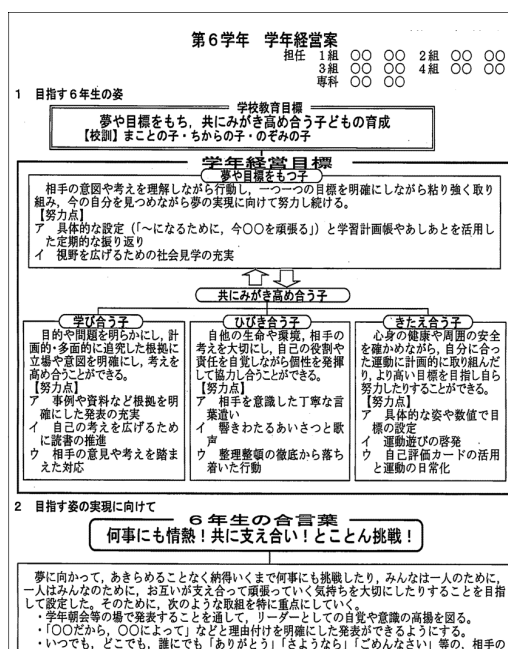
表2）・教育課程の具体的事例を取り上げ、組織的・計画的な指導内容について講義・演習を行った。

学習指導と学級経営との関連については、授業場面を想定したワークシートに、学級経営と関連する事項や気付きを記入させ、学習指導との関連の深さを味わわせるようにした。また、心の教育や生徒指導・保健安全指導についても、学校で作られている各領域や係ごとの全体計画の事例を取り入れたり、いじめのチェックリストやKYT（危険予知トレーニング）などによる具体的な実践演習を通した学習を行わせたりした。

(2) 指導と管理の具体（校務分掌例）



（図表1）



（図表2）

これらの学習を通して、学校経営方針の具体的な柱になるものが「学習指導」「生徒指導」「保健安全指導」など「知・徳・体」と結びついた調和的な発達を促すようにバランスよく計画されており、学年や学級にもその柱が位置づけられ、組織的・系統的に具体化が図られていることを学べるようにした。

また、授業では、括弧埋めや関連図作成、ワークシートへの記入、グループ討議、具体事例資料の活用、学校現場のVTR視聴などを多く取り入れた、主体的に参加させる授業に取り組んだ。

(3) ステップ2の授業(複式少人数学級を有する学校での実地観察)

ア 学修目標と学校体験の関連付け

① 教職の意義の理解

- ・ 教職員の動きと児童のかかわり、特に学級担任の役割や働きかけ、それらに対する子どもたちの反応などの観察。

② 学級経営に対する構想力

- ・ これまでの講義の内容を踏まえ、自己目標や観察の観点を明確にした体験。
- ・ 学級経営のねらいや意図を意識しながら、学級担任の動きを観察・記録。
- ・ 学級設営の教材・教具など、環境的

な要素も観察。

③ コミュニケーション力

- ・ 自ら積極的に子どもとかかわり、働きかけとその効果・反応を意図的に確かめる

④ 自己改善力

- ・ 体験した事の受け止め方や変容など、自分についての気づきを大切にし、記録。

イ 学校体験実地観察ワークシートの項目

① 学校体験の計画

② 受け入れ校の概要(学校要覧等を参考)

- ・ 学校の沿革、校区の環境など
- ・ 学校教育目標
- ・ 目指す学校像、子ども像、教師像
- ・ 教職員数、児童数
- ・ 学校の特色ある教育活動など

③ 学校体験実地観察プラン

④ 目標及び観察の観点

- ・ 自己目標
- ・ 主に観察したい内容(観察の観点)

⑤ その他(持参するもの、参加する上での留意点)

⑥ 観察事項の記録(教科の授業・講話・授業以外)

⑦ 実地観察での振り返り

(観察したことをもとに何を感じ、何を考え、どのような課題が残ったか)

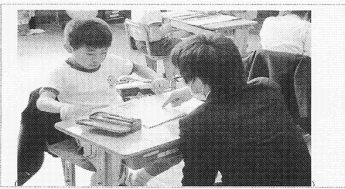
ウ 実地観察の学校体験プランとアンケート

① 事前打合せ

後期スタートに当たり、8月頃に事前に実地観察をさせていただく学校に説明に行き、9月の中旬頃までに次頁の「学校体験プラン」を作成し提出してもらい、そのプランをもとに学生に事前指導を行っている。

② 本プランについて

本プランには、学校教育目標及び学校経営についての校長講話、学級経営についての運営や経験談の教頭講話、学級担任との懇談を入れてもらうようお願いしている。

教職実践研究Ⅱ	
学校体験ワークシート	
〔平成23年度版〕	
	
体験実施学校名	
鹿児島大学教育学部〔	〕課程
〔	〕専修〔
〕年	
学生氏名	
検印欄	平成23年 月 日 印

~ 1 ~

③ 体験後のアンケートから

本アンケートは、実地観察の「有意義度」「観察のし易さ」「教師の仕事の理解」「へき地・小規模校の理解・関心」「教育実習への波及効果」について5段階で調査した。全項目の平均が4.8と高く全学生が満足度を示している。

特に、「教師の仕事の理解」や「へき地・小規模校への関心」については、感想にも特記されているが、校長講話や教頭・担任との懇談等により、経営という観点から仕事の理解や地域の特色を生かすことのすばらしさなどを深めていった。一方「観察のし易さ」については、少人数で子ども相互の特徴などをつかみやすいが、2学年の発達段階の違いや一人一人の個性などはもう少し観察しないと見えないといった感想も多く、もっと担任と学級の実態について懇談したいといった意見もあった。

エ 実地観察報告作成と発表

学生は、実地観察後2単位時間を活用して、自分が観察してきた成果やもっと調べたいことなどをパワーポイントで作成し、プレゼンテーションによる説明を行った。

① 発表内容の構想、資料作成

パワーポイントによる作成にあたっては発表の要旨（何を観察でき、何を学んだか）やその内容の順序、組み立てについて以下の作成例を提示して行われた。

<作成例>

- ① 学級経営についての自己目標
- ② そのわけ・理由
- ③ 観察や交流体験の観点や項目
- ④ 観察体験から感じ、考え、学んだこと
- ⑤ 今後の自分の課題

平成23年度教職実践研究Ⅱ・学校体験モデルプラン【小学校版】

○ 実施日	11月24日(木)	学校名〔日置市立 小学校〕
○ 時間	： ～ ：	学校長名〔 〕
		大学担当〔 〕
		受入人数〔 〕

校 時 表	学校体験活動	備 考
時間 教育活動等		
立哨指導、あいさつ		
8:15 健康観察・朝の会		
8:25 朝の活動(職朝)		
8:45 移動・準備(5分)		
8:50 1校時	9:30 学校到着	・バス運行状況により多少時間の前後あり
9:35 移動・準備(10分)	9:35 校長室挨拶、日程説明等	
9:45 2校時	9:45 校長講話	・学校の概要、教育目標 ・教員志望学生への期待 等
10:30 休息(15分)	10:30 教職への挨拶	・自己紹介
10:45 3校時	10:45 3校時授業(観察)	・児童への自己紹介
11:30 移動・準備(10分)	11:30 移動・準備	
11:40 4校時	11:40 4校時授業(観察)	・配当学級
12:25 給食(45分)	12:25 給食指導補助	・配当学級
13:10 休憩(45分)	13:10 児童とのふれあい、集団遊び	・配当学級
13:55 清掃(15分)	13:55 清掃指導補助	・配当学級
14:10 移動(5分)	14:10 移動	
14:15 5校時	14:15 5校時授業(観察)	・他学年の学級
15:00 移動・準備(10分)	15:00 移動・準備(10分)	
15:10 〔下学年帰りの会〕	15:10 下学年帰りの会	・帰りの会の運営観察 ・児童へのお礼の挨拶 ・担任若しくは教頭に依頼
15:10 6校時	15:10 学級経営に関する講話	
15:55 帰りの会(10分)	15:55 帰りの会	・児童へのお礼の挨拶
16:05 休息(15分)	16:05 休息	・教職員へのお礼の挨拶
16:20 各種部会・委員会等	16:20 退出	・バス運行状況により多少時間に前後あり
17:00		

★一人一人の尊重

- ・「今日のキラリ」
- ・議題箱の設置
- ・給食座席曜日交代
- ・聞き方あ・い・う・え・お
- ・相槌あ・い・う・え・お
- ・写真・作品数多く掲示
- ・誕生日表
- ・特別支援学級



学生が作成したPPT例①

また、発表が単なる見たことの発表に終わることなく、学級経営についての自己課題との関連性を持たせるため、課題設定の理由や課題解決のための実地観察の観点など解決の

方策について仮説検証例も交えて指導も行った。

② 発表

発表の形態、資料書式等は自由とし、一人6分程度発表した後、各発表に対する質疑応答の時間を設定して、疑問点やさらに聞きたいことなどについて協議し合った。発表資料（PPT資料等）は、評価に生かすために提出させた。

発表内容としては、校長講話の内容を引用した「地域の実態」や「特色ある活動」が盛り込まれており、その学校の実情に応じた学校教育目標が示されていた。また、複式学級特有の授業形態や2学年の発達段階、担任の創意工夫などが多く盛り込まれていた。さらに、教育効果や学級経営と結びつけた教室の設営についても多くの発表がなされた。以下はそのPPTの例である。

6. 昼休みの活動について

- ・1～3年生の男女(約20人)と先生でサッカー
休み時間から3年生が中心になって、昼休みの計画や参加者を募っていた
学年間の壁のなさを感じることができた



学生が作成したPPT例②

まとめ

□わかったこと

学級経営にあたって、担任や学校の意図が必ずあるということが分かった。

☆「どうしてこうするのか」という視点を持って実習に取り組むことで、自分の「教師像」、「学級経営像」がより明確な形になった。

学生が作成したPPT例③

(4) ステップ3の授業（学級経営案作成と模擬学級PTA）

ア 学級経営案作成にあたっての指導

具体的な事例研究として、下に示した統一した様式により、学校経営目標から学年・学級の目標や内容へと具体化できるように一斉指導した後に、これまで実地観察してきた学校の形式を自由に選ばせ、作成をさせた。

第()学年()組 学級経営案

男子()人、女子()人 計()人
担任()

【学校教育目標】

↓

【第 学年の経営】

◎学年教育目標

◎学年経営の重点

学年で育てる子どもの姿

↓

こんな点に力を入れて学級づくりを進めたい！

【学級経営方針、重点課題など】

【学級の実態】

◆ 学級目標

◆ 学級経営の具体策

学習指導	道徳指導
特別活動	生徒指導
保健安全指導	環境教育
人権同和教育	家庭との連携

イ 作成された内容について

実地観察した学校での担任を仮定した学級経営案の作成のため、それぞれの地域性や学校が重点的に取り組んでいる特色ある活動をキャッチフレーズとして目指す学級目標を創意工夫していた。

学級の子どもの実態については、少人数の子どもの思い浮かべながら、個人差の大きい学級については、「学び合い・教え合い」を、喧嘩や男女の仲に着目した学生は、「共同作業」や「平等な分担」「輪番制」などを大切にしたい具体的な課題やその解消に向けた課題解決策を考えていた。

学習指導に関する具体的な取組については、授業への積極的な取り組みを促す「発表」や「言語活動」「考える力」「宅習」などを取り上げ、回数や時間等の数値目標を設定した学級経営案も見られた。

また、生徒指導や德育・健康安全に関する取組については、「あいさつ」や「学級遊び」「お楽しみレクリエーション」「学習のしつけ」「生活日記」「生活リズム」「残さない給食」「整理整頓」など多岐にわたる事項を取り上げ、学校行事と関連させたり家庭生活への協力を要請したりと目標達成に向けた多面的な取り組み事例の工夫が見られた。

さらには、目標達成に向けて、学期ごとに重点項目を子どもや教師が評価できるように自己評価欄を設けた経営案もあった。

ウ 模擬学級PTA(学級経営説明会)の開催

4月当初の学級PTAにおける保護者への説明を想定して発表させた。雰囲気作りのため、2つの模擬教室を使い、以下のタ

イトルを投影し、学級担任を中央全面に、保護者役の学生をその周りに座らせ、一人7分間発表(時間厳守)した後、3分間の質疑応答(発表順の2つ後の人は、必ず質問をする。)を行わせた。

① 説明会

説明会では、担任の自己紹介、本学級の担任としての豊富を交えながら行わせた。配付した資料に基づき、箇条書きのところは、具体的説明を加えながら丁寧な言い回しや保護者への協力、学校方針を含めた経営の理解など、保護者を意識したコミュニケーション能力の育成につながっていった。

特に、強調したい事項については、担任の創意工夫した思い・熱意などが感じられた。また、どの子にも配慮する観点から、公平・公正な立場についても配慮がなされた。

② 質疑応答

学生の質問では、担任の工夫や思いについて、その理由や背景、学校経営との関連など多岐にわたった。中には、子どもを否定的に捉えた表現やある個人に限定したような表記、人権に関すること、保護者への威圧的説明、など指摘事項も多く出され、保護者とともに育てる教育についても、議論がなされ学級担任としての意識や自覚が高まっていった。

6 成果と課題

ステップ1では、学校の教育課程や校務分掌組織、学校経営との関連性など、現場の具体的資料やワークシートを用いた事例研究、演習等を多く取り入れたことにより、学校を組織的に、具体的に把握するのに有効であったと考える。ただ、学生が多くの観点を持って新鮮な目で実地観察できるように、自己課題や現在の教職に関する意識や自覚に合わせて主体的な学習が生まれるよう、学生の実態に応じた授業の工夫も必要である。

ステップ2の実地観察では、複式学級での協力学習や休み時間・清掃時間の異学年交流、教室内の掲示物や整理された学習環境などに着目

模擬学級PTA 学級経営説明会

教職実践研究Ⅱ
平成24年1月26日

し、学級経営案との具体的なつながりや子どもの実態に即した学級経営の重要性などを学び、テーマに基づき報告していた。今回は、学校経営方針を基にした学級担任の創意工夫が、組織的・計画的に実践されていることに主眼を置き、自由な観察に加え、校長講話や担任との懇談などを多く取り入れてもらったことで、観察で見えなかった背景や理由も含めて発表する学生もいた。

ステップ3では、実地観察校に新任として赴任する学級担任を仮定し、学級経営案を作成するため、学校の実情や子ども一人一人の実態を基に、学生なりのアイデアを盛り込んだ、多様で意欲的な経営案づくりに結び付いている。今回取り入れた、模擬学級PTAでの担任説明では、分かりやすい具体的な説明を心がけていた。また、保護者役の学生への質問にも、丁寧に説明するなどコミュニケーションの取り方や基本的な保護者対応といった学習へと発展していくことができた。発表後の協議では、危機管理や人権教育、特別支援教育などにも広がり、本科目の焦点化・重点化についても課題が残った。

本科目は、実地観察に基づく学校体験を柱としており、受講生の増加に伴う、受け入れ校や指導者の協力体制についても検討しておく必要がある。